



IMV CORPORATION

2023年9月期 決算説明資料

2023年11月

目次

Agenda

1. 2023年9月期決算サマリー
2. 各種の取り組み
3. Appendix

目次

Agenda

1. 2023年9月期決算サマリー

2. 各種の取り組み

3. Appendix

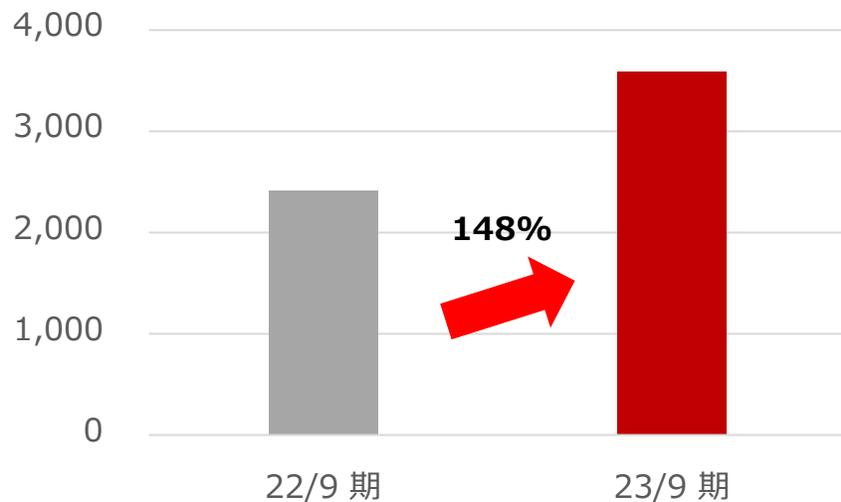
2023年9月期 トピックス (海外販売の続伸)

Topics

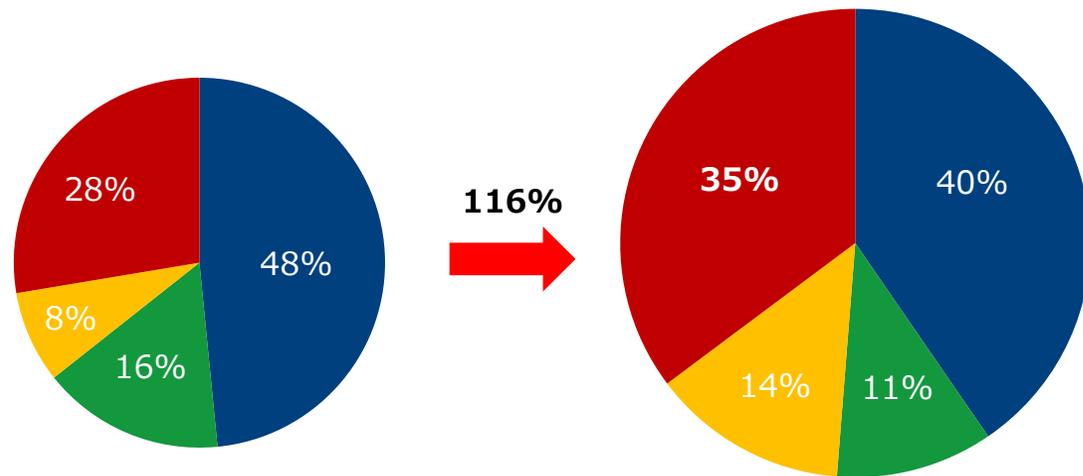
振動シミュレーションシステム (DSS)

- 22/9期に引き続き海外での販売が好調。DSS事業全体で前年同期比116%の売上
 - 特に欧州で売上が伸長、欧州での売上は前年同期比148%。今後も大型納品を予定
 - 大手自動車メーカー(欧州・社名非公表)への納品も行い、日本だけでなく欧州でもトップの売上を記録
- * 他社との売上比較は当社独自調査による

DSS欧州売上高 (単位：百万円)



DSS売上構成比



■ 日本 ■ アジア ■ 欧州 ■ その他

2023年9月期 トピックス（重点取組）

Topics

研究開発



22/9月に初期版をリリースした“iMV cloud”の本格的なサービス提供を開始。
トヨタ自動車様のセキュリティ診断もパスし、ユーザー増加や受託試験場ユーザーへのサービス提供など、さらなる進化を計画。

防災事業



MEMS静電容量型振動センサーを採用した地震計 2 モデルを発売。
製品性能や管理負荷の軽減に加え、低コストなSW-5033と従来通りの性能を持つSW-7033を選択することで、より広い対象で地震計導入の可能性。

グローバル



市場開拓を進める米国市場にサービスセンターを開設。
高い専門知識を持ったスタッフによる迅速で的確なサービス提供体制の構築を図り、新たな顧客開拓を進め事業拡大を目指す。

船舶認証



海上機器における試験並びに認証取得のサポートをe-TCJ（日本高度信頼性評価試験センター）で開始。
船に関わる機器の重要度や法規制、協会の要求などを包括した試験に対応し、お客様のお問い合わせ先を一本化。

2023年9月期 業績の概況（全社）

Performance

- 中期経営計画「単なるモノ売りビジネスからの脱却」実現に向け、前年度に初期版をリリースしたクラウドシステム“iMV cloud”の本格サービス提供を開始。海上機器への総合サポートサービス、バッテリー信頼性評価試験一括受注サービス(2024年4月～)など、機械装置販売の強化のみならず多様なビジネスモデルの構築を図った。
- 売上高は振動シミュレーションシステム及びテスト&ソリューションサービスの伸長によって増加、過去最高を更新
営業利益は部材や電力料金の高騰による利益が圧迫される一方で、増収効果、製造原価の低減等により大幅増
- 受注高実績及び受注残高は増加しており、来期は売上高14,000百万円(当期比1.9%増)、営業利益1,350百万円(当期比6.5%増)の達成を目指す

(単位：百万円)

	22/9期	23/9期	前年同期比	24/9期 業績予想	
売上高	11,888	13,727	+15.5%	14,000	過去最高を更新
営業利益	825	1,266	+53.5%	1,350	増収効果、製造原価の低減等により大幅増
受注高	13,786	15,098	+9.5%	-	受注残高も含めて増加、売上伸長を見込む

2023年9月期 業績の概況 (事業別)

Performance

- **振動シミュレーションシステム (DSS)**
海外市場は欧州・米国で電気自動車向け大型案件に恵まれ前年同期を上回る。また、サービス部門においても需要が増加
国内市場は前期に比べ景況感が上向きになり、設備投資需要に回復の兆しが見え、受注と売上は増加傾向で推移
- **テスト&ソリューションサービス (TSS)**
車載用バッテリーを中心に電気自動車関連や発電所関連の振動試験が堅調に推移
日本高度信頼性評価試験センター (e-TCJ) におけるEMC試験 (Electromagnetic Compatibility) や環境試験も伸長
- **メジャリングシステム (MES)**
地震監視装置における電子部品や半導体の部品調達難の影響を受けたものの、振動計や監視装置の売上高が伸長

(単位：百万円)

	22/9期	23/9期	前年 同期比	
振動シミュレーションシステム (DSS)	8,791	10,174	+15.7%	海外市場とサービス部門の伸長、国内需要回復傾向により増加
テスト&ソリューションサービス (TSS)	2,237	2,538	+13.5%	電気自動車関連や発電所関連の振動試験が堅調 EMC試験や環境試験も伸長
メジャリングシステム (MES)	860	1,014	+17.9%	調達難の影響がありつつも、振動計や監視装置の売上高が伸長

決算概要（連結）①

Performance

（単位：百万円）

	22/9期	23/9期	前年同期比	コメント
売上高	11,888	13,727	+1,839	●売上高はDSS事業及びTSS事業の伸長により増加
営業利益	825	1,266	+441	●営業利益は増収効果に加えて販売管理費が低く抑えられていたことから大幅に増加
経常利益	1,237	1,574	+336	●前年度に計上していた為替差益や投資有価証券売却益等の営業外収益・特別利益が減額したものの、増収効果等により当期純利益（親会社帰属）は増加
当期純利益（親会社株主帰属）	1,065	1,126	+60	
1株当たり当期純利益	65.42	69.11	-	
売上高営業利益率	6.9%	9.2%	+2.3%	

決算概要（連結）②

Performance

（単位：百万円）

	22/9期	23/9期	前年同期比	コメント
営業キャッシュ・フロー	742	103	△639	●主に売上債権が959百万円増加したことを受け、 営業キャッシュ・フロー増加額は前年同期比で減少 したものの、プラスを維持
フリー・キャッシュ・フロー	553	△225	△778	
現金及び現金同等物残高	3,273	1,908	△1,365	●長期借入金1,115百万円返済のため保有現金は減少
自己資本	8,275	9,243	+967	●利益剰余金の増加により自己資本が増加
自己資本比率	48.8%	53.5%	+4.7%	●有利子負債削減も進めた結果、自己資本比率50%超へ

決算概要（連結）③

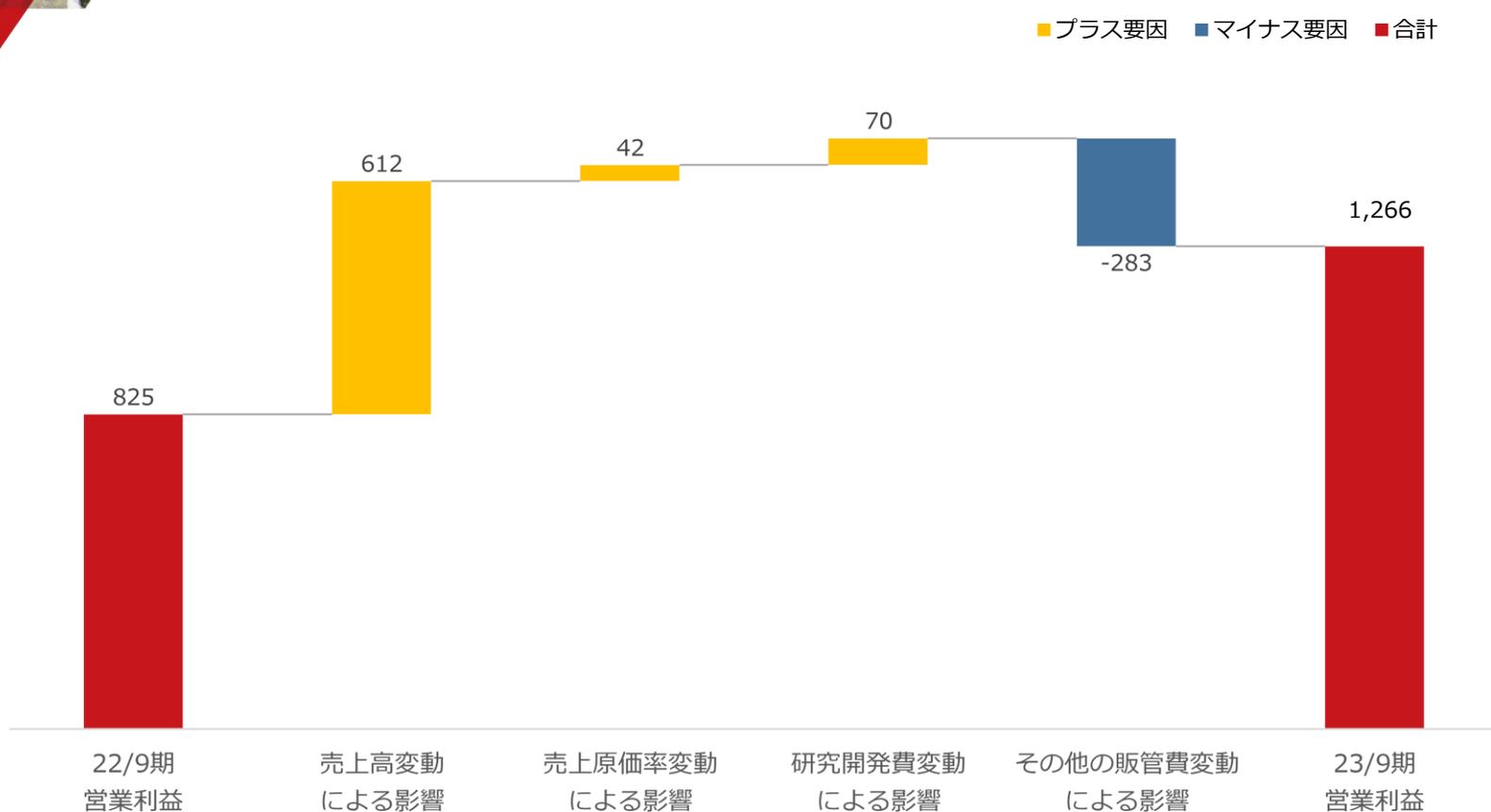
Performance

（単位：百万円）

	22/9期	23/9期	前年同期比	コメント
設備投資額	417	393	△24	<ul style="list-style-type: none"> ●設備投資額は主に試験機類の更新によるもの ●研究開発費は前年度に“iMV cloud”リリースにかかる計上があったため、今年度は減少 ●獲得した利益を安定的に株主に還元すると共に、株主及び機関投資家との対話を通じてIR活動の充実を図る
減価償却費	574	546	△27	
研究開発費	774	703	△70	
期末株価（円）	432	506	+74	
期末時価総額（自己株式を除く）	7,039	8,246	+1,208	

営業利益増減要因

Performance



22/9期 営業利益	825
売上高変動による影響	+612
売上原価率変動による影響	+42
研究開発費変動による影響	+70
その他の販管費変動による影響	△283
23/9期 営業利益	1,266

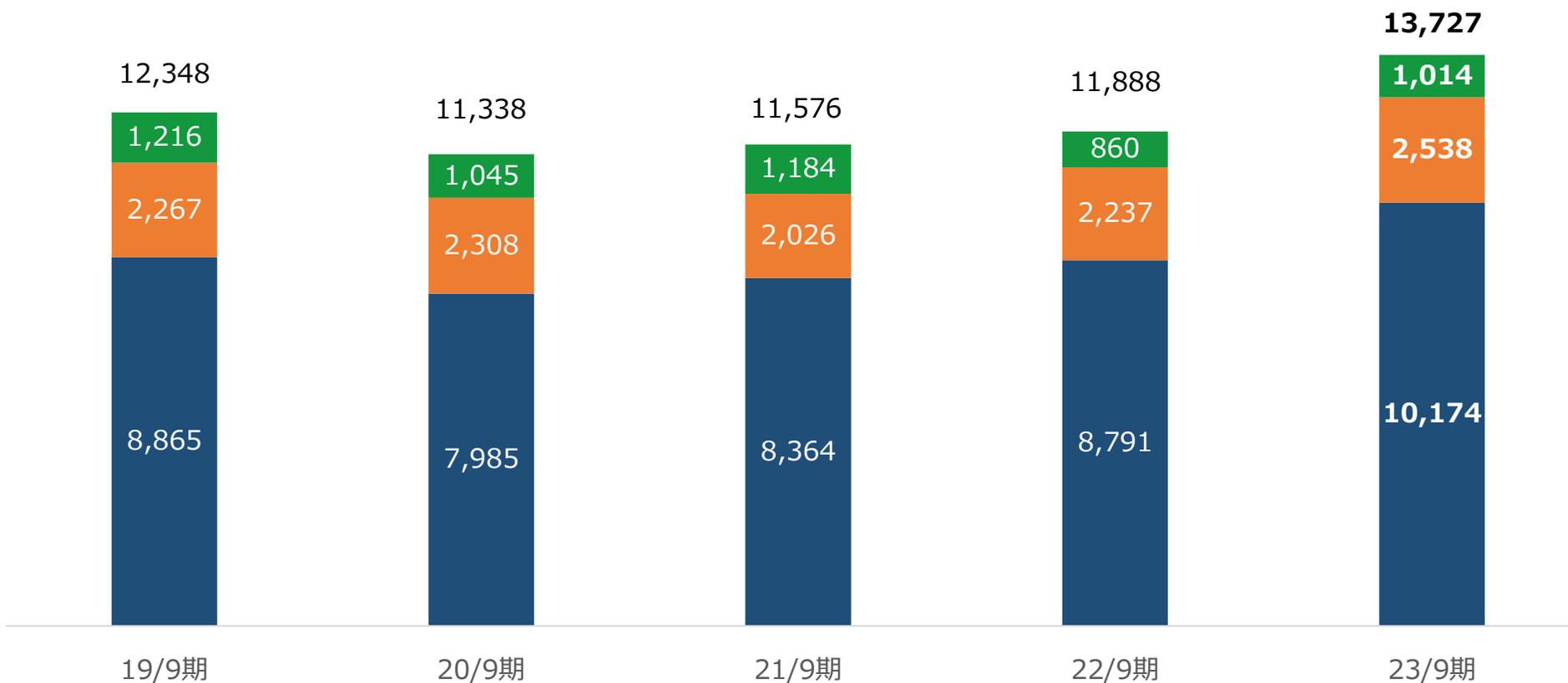
事業別 売上高推移

Performance

■ DSS ■ TSS ■ MES 合計

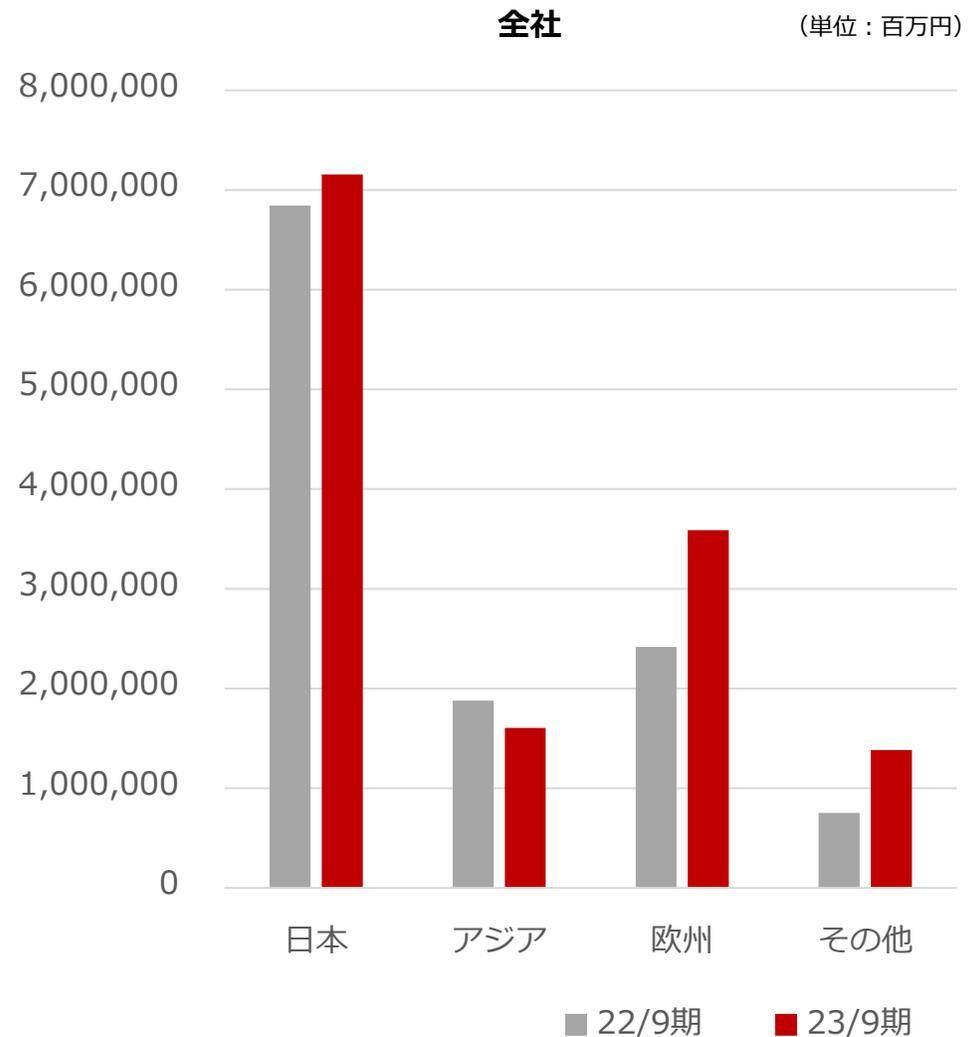
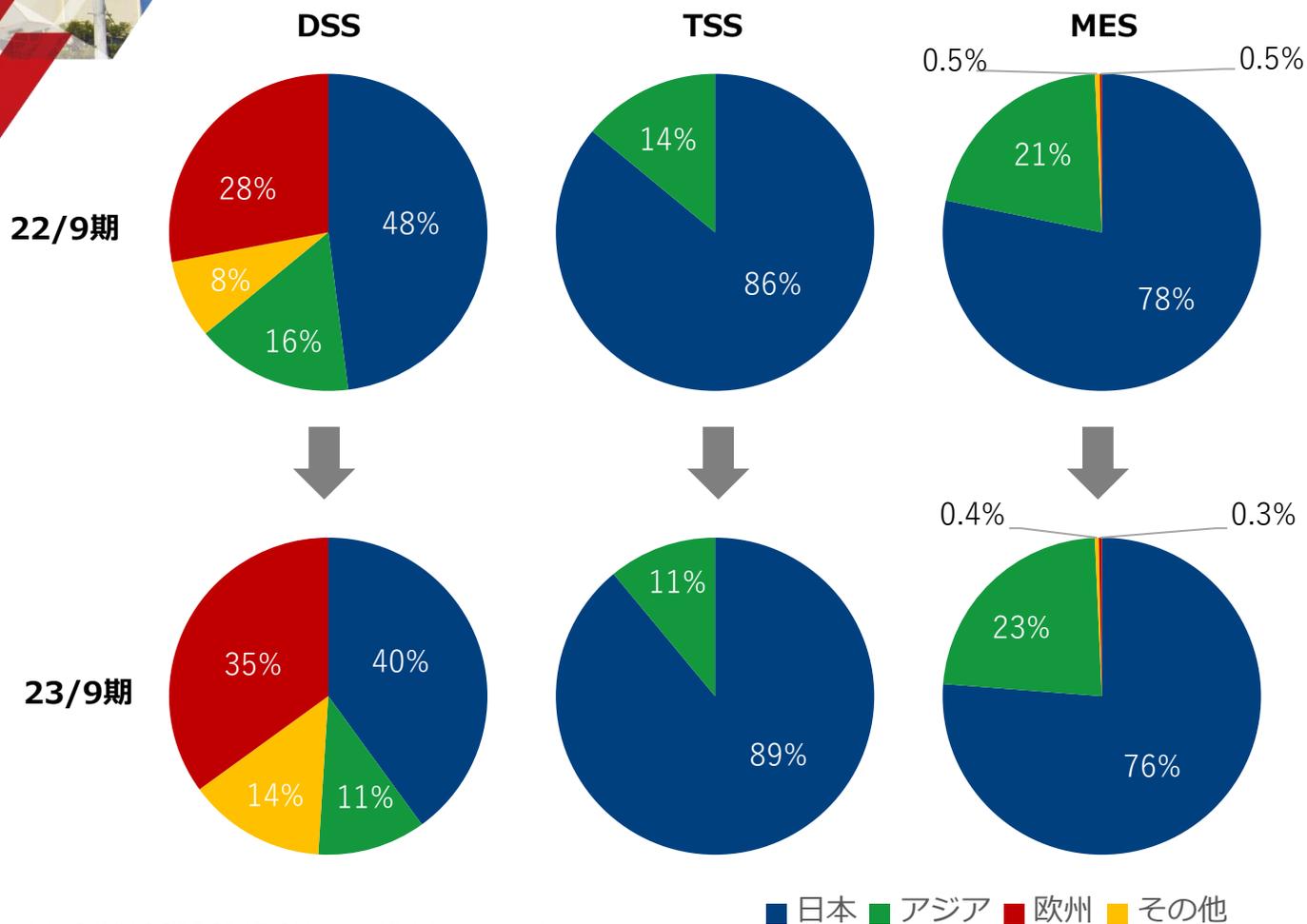
(黒字は合計額)

(単位：百万円)



事業別 地域別 売上構成比・売上高

Performance



資産の状況 ①

Asset

(単位：百万円)

22/9期

23/9期



資産

負債・純資産



資産

負債・純資産

自己資本比率
 22/9期 48.8%
 23/9期 **53.5%**
 (+4.7%)

資産の状況 ②

Asset

(単位：百万円)

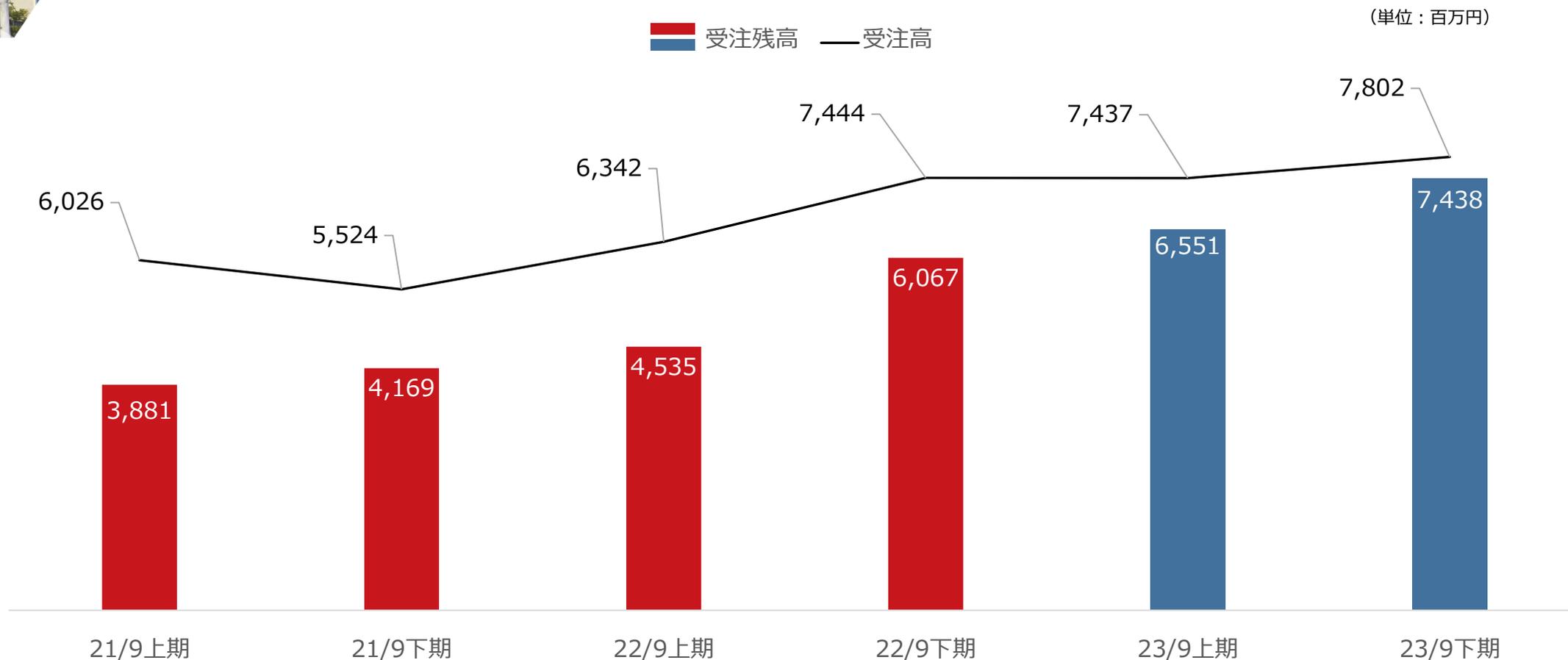
	22/9期	23/9期	増減
当座資産	7,656	7,411	△245
その他の流動資産	3,778	4,386	+608
流動資産計	11,435	11,798	+363
有形固定資産	4,879	4,793	△85
無形固定資産	86	110	+24
投資その他の資産	565	585	+20
固定資産計	5,530	5,488	△41
資産合計	16,964	17,286	+322

	22/9期	23/9期	増減
流動負債	7,510	7,163	△346
固定負債	1,179	879	△299
負債計	8,689	8,042	△645
自己資本計	8,275	9,243	+967
純資産合計	8,275	9,243	+967
負債純資産合計	16,964	17,286	+322

受注の状況

Received order

(単位：百万円)



業績の見通し（連結）

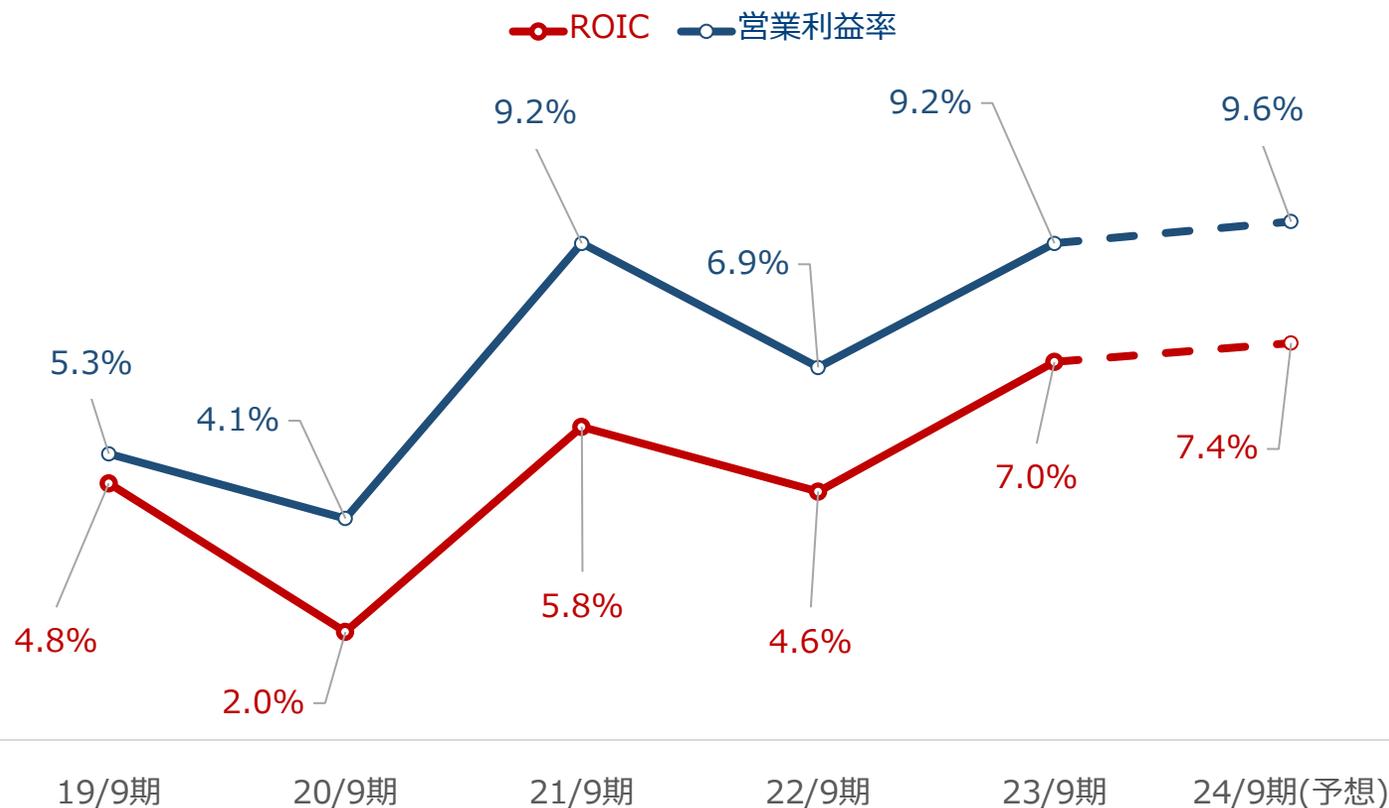
Outlook

（単位：百万円）

	23/9期実績	24/9期予想	前年度比	コメント
売上高	13,727	14,000	+1.0%	<ul style="list-style-type: none"> ● 受注残高が増加していることから来期売上は140億円の予想 ● 為替差益や投資有価証券売却益を想定しないことなどから経常利益は減少する見込
営業利益	1,267	1,350	+6.5%	
経常利益	1,574	1,350	△14.3%	
当期純利益（親会社株主帰属）	1,126	939	△16.6%	
売上高営業利益率	9.2%	9.6%	+0.4%	
1株当たり当期純利益	69.14	58.33	-	
1株当たり配当金（円）	12.0	12.0	-	

営業利益率及び投下資本利益率（ROIC）の推移

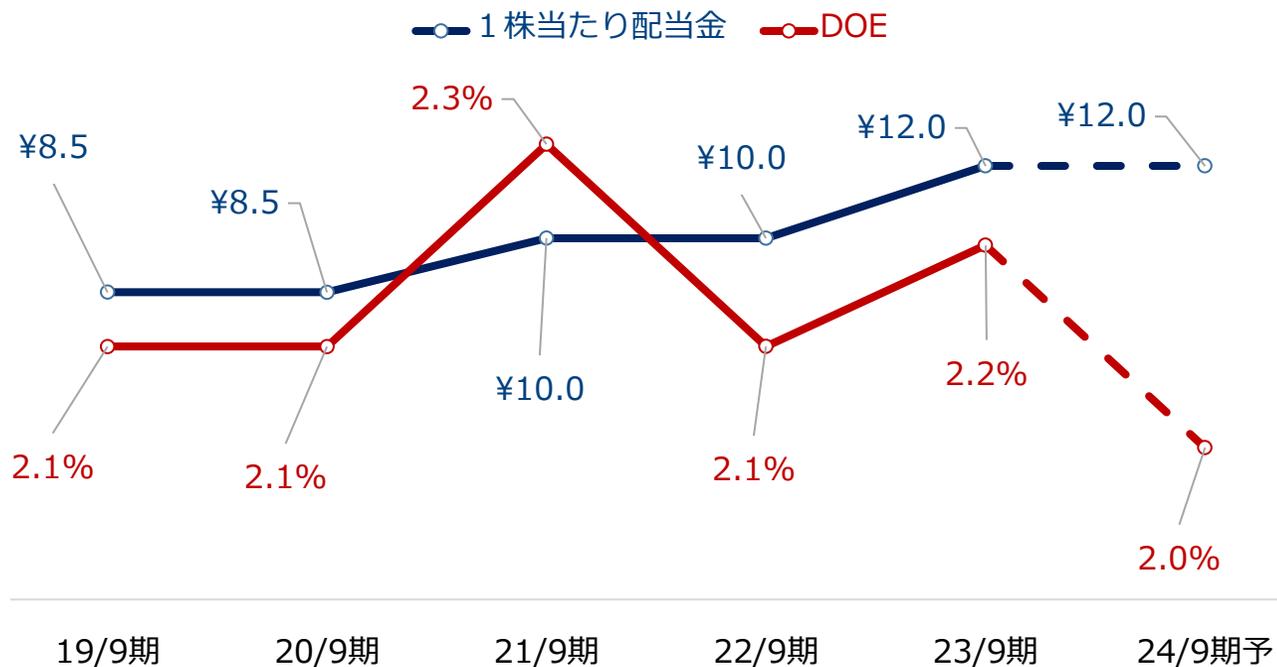
Operating profit / ROIC



- 19/9～20/9期は国内施設及び海外子会社向けの積極投資に伴う固定費の増加が先行した結果、営業利益率、ROIC共に低下傾向
- 23/9期の営業利益率は増収効果に加え、継続的な費用低減活動により9.2%へ向上
- 24/9期のROICは増収効果、2023年11月に決定・公表した自己株式の取得を実行することで上昇見込
- 効率的な資本投入により収益性の向上に努めるとともに、資本効率のさらなる向上を目指す

配当金及び株主資本配当率（DOE）の推移

Dividend / DOE



》 23/9期の1株当たり配当金は10円から**12円へ増配**

》 安定的かつ継続して配当を実施することを基本方針とし、1株あたり配当金を安定的にすることで株主への還元を重視

》 DOEなど、資本効率を考慮した株主還元を実施するため24/9期には自己株買いを実行 (2023年11月決議・公表)

配当額	130	138	138	162	195	- (百万円)
-----	-----	-----	-----	-----	-----	---------

目次

Agenda

1. 2022年9月期決算サマリー

2. 各種の取り組み

3. Appendix



MES

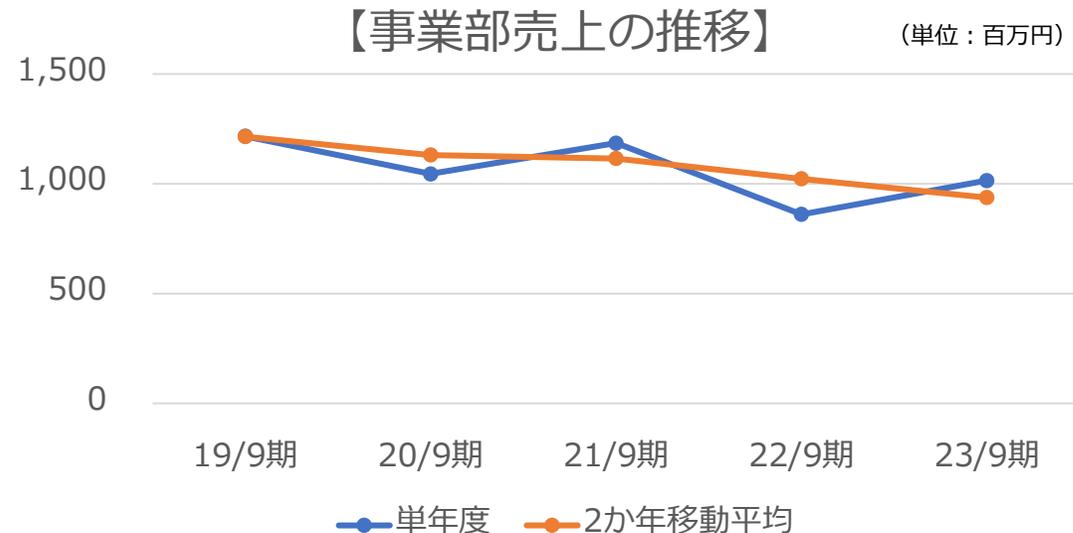
Measuring Systems
メジャリングシステム

2023年9月期の総括

概要（◎は達成、●は未達）

- ◎ 前期に不振だった振動計・監視計は今期に回復
- ◎ 防災BU（BU=ビジネスユニット）も今期の計画達成
- 予知保全BUおよび試験事業が大幅未達
- 過去のトレンドをブレークスルーする原動力と位置付けるM&Aが途上
- 中期経営計画で決めた通りM&Aを軸として来期にブレークスルーを図る

製品群	計画達成率
振動計・監視計	110%
試験事業	26%
防災BU	109%
予知保全BU	10%
その他	29%
	87%



防災BU (BU=ビジネスユニット) の発足

➤ 地震計事業から防災事業へのドメイン拡大を図る為**防災BU**を昨期に発足

【企画したプロセス】

(1)まず「日本一の地震計メーカー」になる
(手法)

- ① 官公庁需要に強い同業社のM&A
= 途上
- ② インフラ需要開拓
= **災害時ガス自動遮断装置開発**
- ③ ODA (海外開発援助) への参入
= **JICA案件参入**

(2)海外を含めた「総合防災企業」へ転換する
(手法)

M&Aをテコとし地震計ISO化という国際潮流に乗る戦略



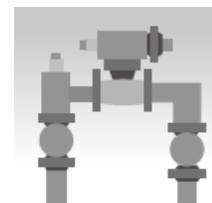
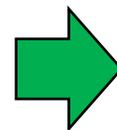
地震発生時のガス弁自動遮断用センサ【SW-5033】を
日本中の200社超のガス会社向けに発売開始(2023年9月)

地震報知用途に特化した業界最安値モデル登場



SW-5033

- ・他社比約4分の1の価格により
予算内で多量の設置が可能に
- ・日本初の耐衝撃性能1000G



ガスガバナなど



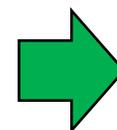
変電所など

地震計のISO世界規格化も追い風に

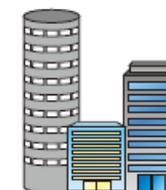


SW-54

- ・ISO規格化が2024年に発効予定
- ・JICA(国際協力機構)を通じた
インドネシアでの地震計ニーズ
確認調査を実施



インドネシア
上水道向け

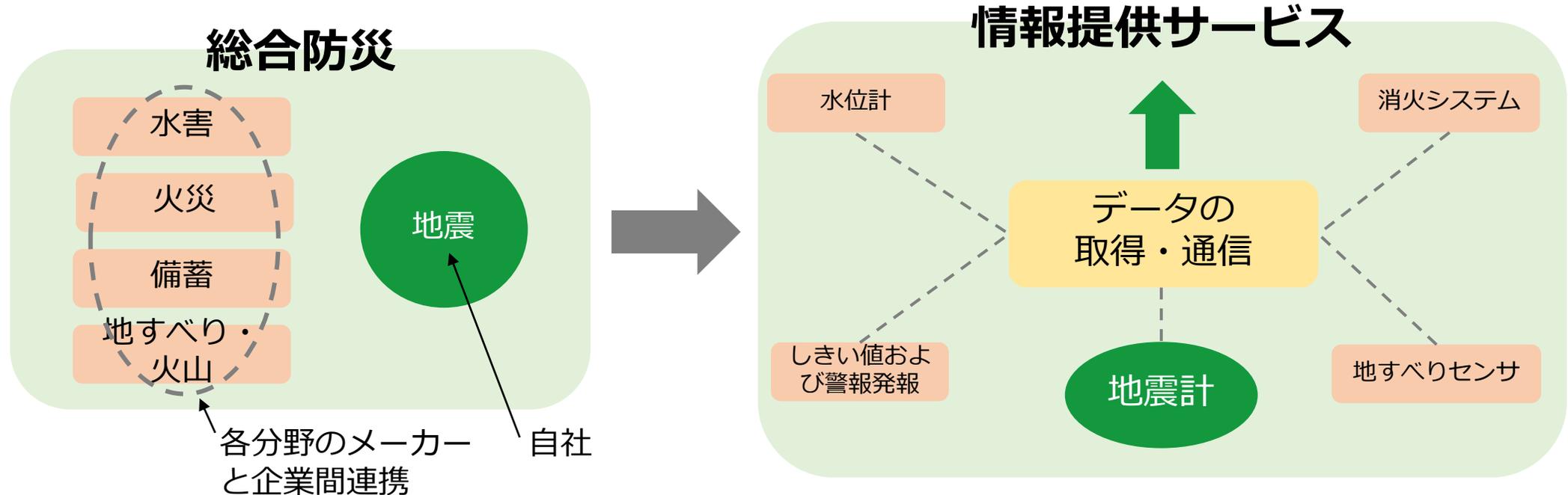


アジア商業施設
向け

総合防災企業としての「IMVの役割」

➤ 【22/9期企画】地震計日本一に並行して、通信分野で企業間提携を通じてラインナップを拡充し、販路構築を図る

【現状】 2025年の大阪・関西万博にて製品・サービスを提供する準備中



これらの製品を揃えたうえで、そこから得たデータを通信でつないで人々に危険を知らせる「**情報提供サービス**」を付加価値とした防災企業を目指す。

予知保全BUを発足し振動予知保全に参入

➤ FA業界進出への足掛かり…「振動予知保全」の市場づくりへの取り組み

【22/9期に企画したプロセス】
長期でFA市場に本格参入する為、
三菱電機の「**機器パートナー**」というポジションで営業開拓

(手法と結果)

* 予知保全BUはゼロからの起業だが、物流機器業界を中心に
546件の引き合いと25件のトライアル受注を獲得。
その中には大手企業も多く24/9期につなげる

(24/9期への展望)

* 振動予知保全の問題点は【現場でのしきい値設定】
→振動予知保全のしきい値設定を「ティーチイン方式」(FAの現場では主流)
で簡単に出来る世界初の新製品【**VDユニット**】を来期に発売予定





 **IMV CORPORATION**

TSS

Test & Solution Service

テスト&ソリューションサービス

試験・認証関連のワンストップサービスの提供①

≫ 増大するEV試験需要への対応並びに範囲の拡大

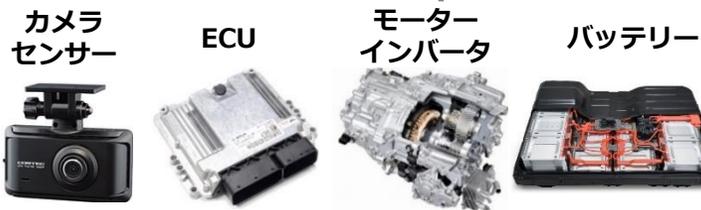
EV/HEVの普及に伴い主要部品の様々な試験需要がさらに増加傾向

*主要部品：バッテリー、モーター、インバーター、BMS、強電ハーネス

➔設計検証から量産チェックの工程のフェーズにあった試験ならびに検証のサービスを提供

車載部品

コネクタ
ハーネス



設計検証試験

信頼性試験

安全性試験

耐久試験

EMC試験

法規制対応

EV比率
拡大計画

開発期間
短縮

試験機会の増大
社内リソース不足

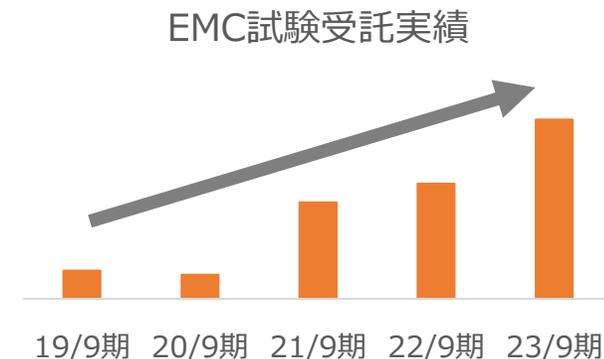
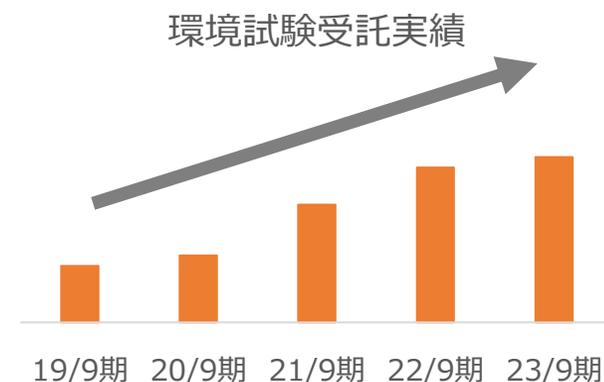
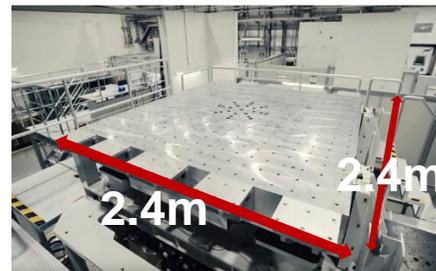
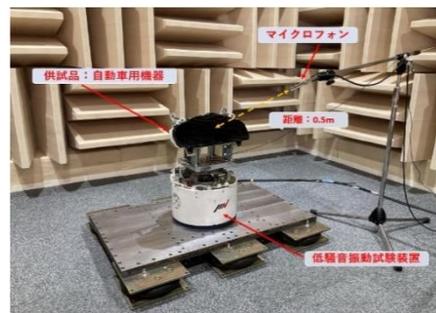
評価・試験の
アウトソース

試験・認証関連のワンストップサービスの提供②

総合的な評価・試験だけではない法規・技術コンサルティング
ならびに認証取得サポートをワンストップで提供



認証取得サポート
法規・技術コンサルティング



試験・認証関連のワンストップサービスの提供③

≫ 総合的な評価・試験だけではない法規・技術コンサルティング
ならびに認証取得サポートをワンストップで提供

海上機器認証の為の試験サービス(船級協会並びに欧州MED)

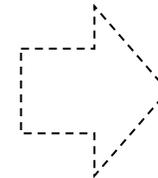
鉄道機器認証の為の試験サービス (国内、国外規格対応)

欧州CEマーキングの為の試験サービス (あらゆる分野、カテゴリー)

韓国KCマークの為の試験サービス (産業機器)

無線機器の世界各国認証代行 (Wi-Fi, BT, 4G, 5G, Rader, etc..)

各国各種分野の法規制調査

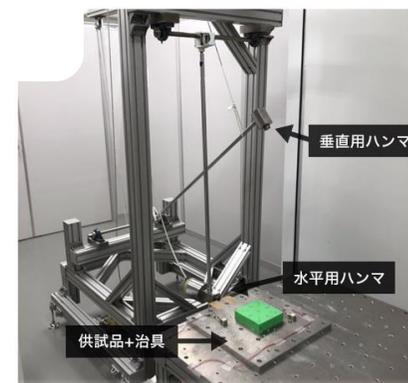
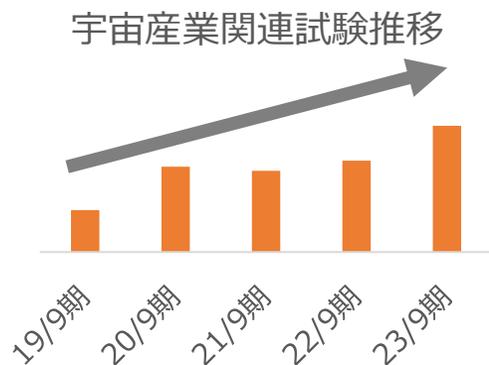


製品に関わる全ての
試験並びに認証関連
をサポート

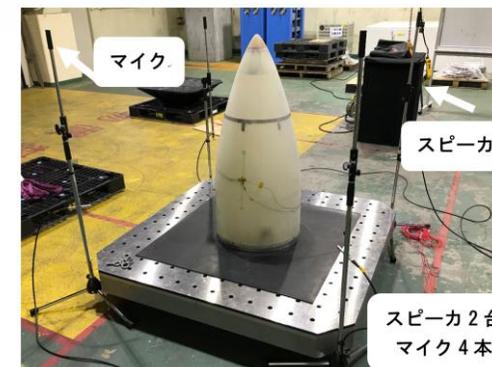
民間宇宙開発の試験需要増加への対応と範囲の拡大

≫ 総合的な評価・試験だけではない法規・技術コンサルティング
ならびに認証取得サポートをワンストップで提供

民間ロケット打ち上げに向けた宇宙関連機器の開発が活発化する中、
宇宙関連試験の実績をもとに、振動・衝撃・音響に関する試験・測定の実施
及び試験方法のコンサルティングの提供機会が増加



2022年1月：インターステラテクノロジズ株式会社に出資



電池における総合評価試験 &ソリューション サービス開始①

2024年 4月

IMV高度試験センター（山梨県上野原市）はEV等の電池を対象とした

総合評価試験 & ソリューション

サービスを開始

信頼性評価試験受託 → **信頼性評価一括サポート事業へ**

[Liバッテリーパック、FCユニット、電動パワートレイン]

◎機能試験の一括対応…環境試験・振動試験・衝撃試験・多軸多点試験

◎波形解析（損傷度比較 etc…）・試験条件提示

電池における総合評価試験 & ソリューション サービス開始②

総投資
3億円



- ◎機能試験の一括対応
 - ・環境試験・振動試験
 - ・衝撃試験・多軸多点試験
- ◎試験の前工程、後工程にも対応
- ◎波形解析（損傷度比較 etc…）
- ◎試験条件提示などの技術サービス

売上計画
初年度
1億円
3年目
3億円



DSS

Dynamic Simulation Systems

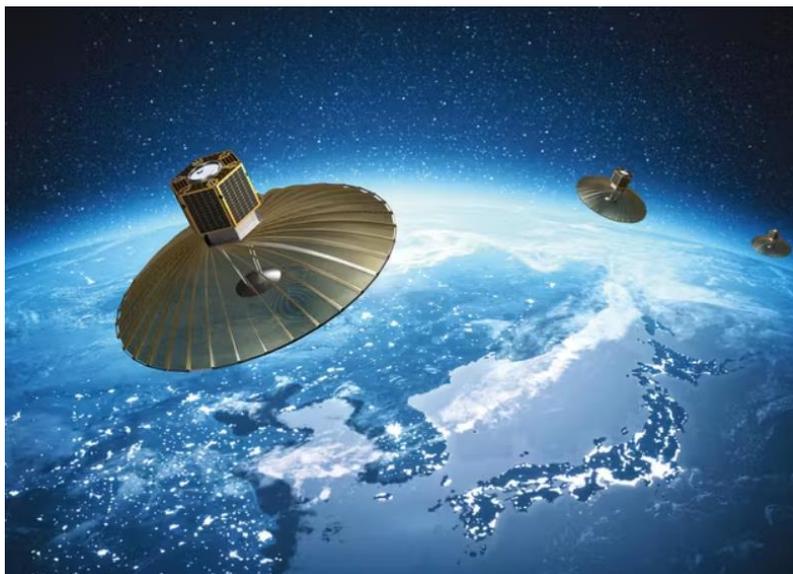
振動試験装置

DSS 事業の受注トピックス①

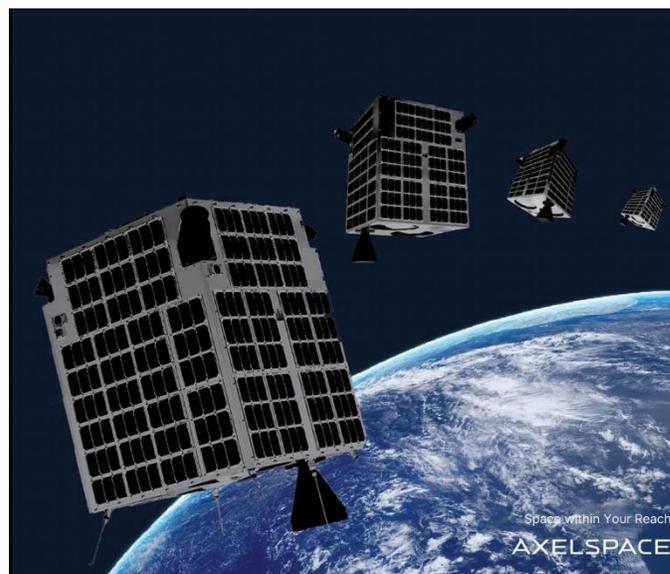
➤ 環境試験ソリューション戦略：『お客様とつながる（課題解決）』

国策を受け、宇宙関連企業で多額の補助金

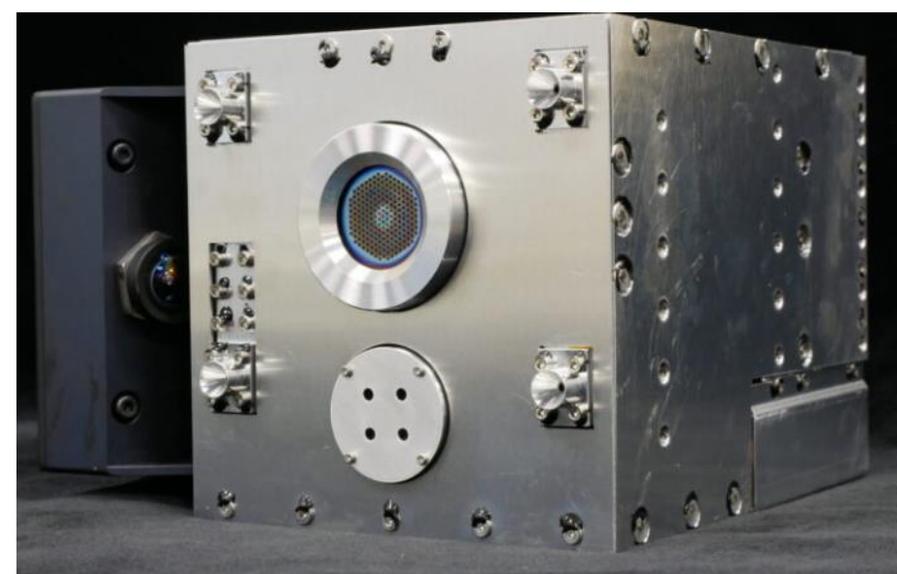
QPS研究所様、アクセルスペース様、Pale Blue様 より試験装置受注（宇宙業界向け）



【株式会社QPS研究所様】



【株式会社アクセルスペース様】



【株式会社Pale Blue様】

DSS 事業の受注トピックス②

➤ 環境試験ソリューション戦略：『お客様とつながる（課題解決）』

EV評価用振動試験装置導入

ベトナム VinFast様 よりEVバッテリー評価用

大型振動試験装置を受注しお客様が運用を開始しました！

ベトナムテストラボにて、VinFast様より
さまざまな受託試験をご依頼いただき、良い関係を構築してきました。
この度、EVバッテリー評価用として、
大型振動試験装置を導入させていただきました。

補足情報：VinFast様

米国ナスダック市場への上場後数日間では、

瞬間最大で**世界の自動車メーカー時価総額**

ランキングで第3位にまで評価されました。

※EV専門メーカーでは**テスラ社に次いで第2位**

※当時、1位：テスラ、2位：トヨタ自動車

3位：VinFast



V I N F A S T



©VinFast

DSS 事業の新しい挑戦

≫ 環境試験ソリューション戦略：『お客様とつながる（課題解決）』

1. レンゴ様 と輸送振動試験における時間短縮方法の検証（継続）
2. 某自動車メーカー様 にIMVコンシエルジュを新規導入

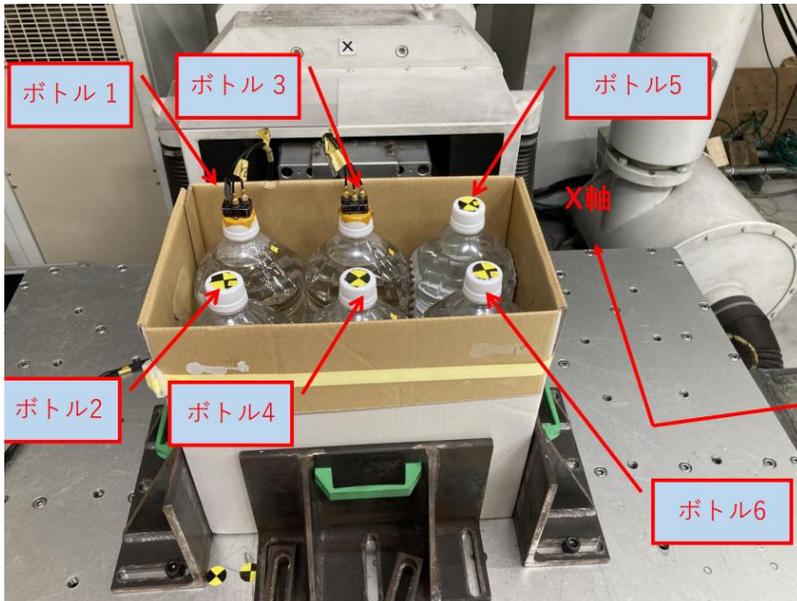
DSS 事業の新しい挑戦①

➤ お客様とつながる（課題解決）：『**レンゴ様**との取組み』（22/9期共同研究の継続）

◆ 輸送振動試験における課題

= 『**1軸ずつ加振するので、試験時間が長い。3軸同時試験で時間短縮を図れないか？**』

- ➔ 1年間共同研究を行い、一定の検証結果を得ることができた。反面、追加検証のためのデータ取得が必要結果、もう一年共同研究を行い検証を深める取組みを行うこととなった
- ➔ (IMVが提供できる価値) 検証方法と実験結果、検証結果の提供



※実際に輸送した時の振動データを取得し、加振実験を行い検証を深める



【砂利道】



【目の粗い舗装道路、段差】

DSS 事業の新しい挑戦②

➤ iMV cloudの展開（IMVコンシェルジュ）：**某自動車部品メーカー様**へ新たに導入

➔ 振動試験装置の状態をデータ蓄積し、AI診断により適切な状態で試験を行えるようアドバイス



【IMVコンシェルジュの機能】

- ・試験が正しく行えているか？
- ・振動試験装置の状態監視
- ・メンテナンス時期のお知らせ
- ・供試品の取付け方法アドバイス
- ・振動試験実施可否の判断
- ・etc

DSS/TSS 事業の新しい挑戦

≫ 環境試験ソリューション戦略：『お客様とつながる（課題解決）』

- ① **某自動車メーカー様** と電池評価試験棟建築についてのコンサルティング契約締結
- ② **某自動車メーカー様** の電池評価試験をすべてIMVで行うための訓練開始
- ③ **トヨタ自動車様** へiMV cloudサービスを導入するためのセキュリティ診断をパス
* “iMV cloud”で記述
- ④ **テストラボユーザー様** 向け、iMV cloudサービスを開始
* “iMV cloud”で記述

DSS/TSS 事業の新しい挑戦①

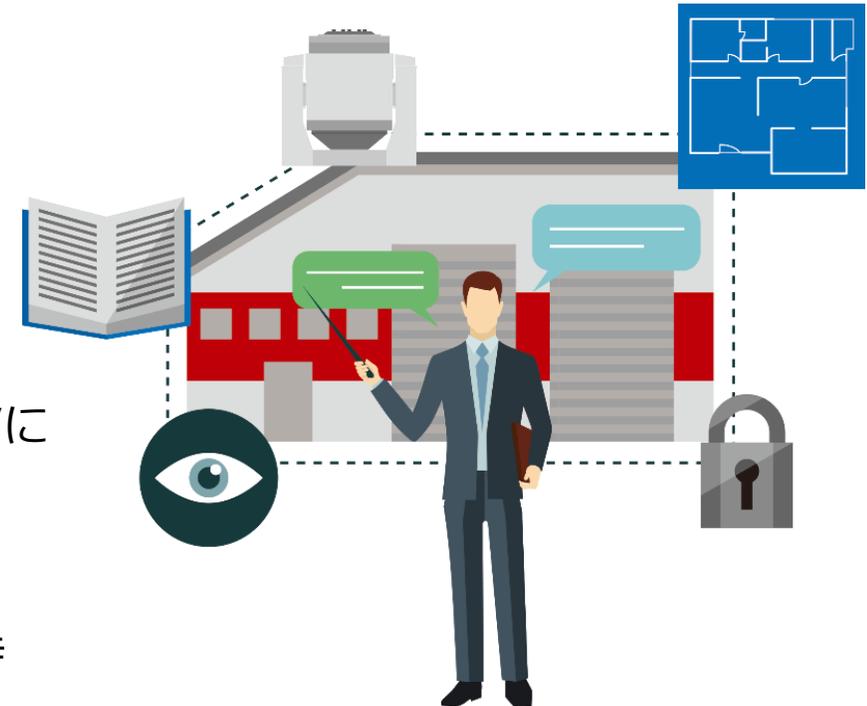
➤ お客様とつながる（課題解決）：『某自動車メーカー様とEV用バッテリーの取組み』

◆EV用バッテリー評価における新たな取組み

- ➔ これまで…お客様のバッテリーをお預かりして評価（主に温度・湿度・振動・衝撃試験）を行ってきた
- ➔ 新たな取組み

バッテリー評価棟を新設する某自動車メーカー様より、
評価試験装置・試験棟等についてIMVへアドバイザーの依頼
→試験装置以外の法規等についてもアドバイスすることとなり、
コンサルティング契約を締結

→お客様にとっては、バッテリー評価において多数の実績あるIMVに
評価棟のコンサルティングを任せることで、
早期に評価棟の建設を進めることができる。
また、IMVが保有している知見を共有することで、
今後のバッテリー開発においても早期に検証を行えることに期待



DSS/TSS 事業の新しい挑戦②

≫ お客様とつながる（課題解決）：『某自動車メーカー様とEV用バッテリーの取組み』

◆EV用バッテリー評価における新たな取組み

- ➔ これまで…お客様のバッテリーをお預かりして評価（主に温度・湿度・振動・衝撃試験）を行ってきた
- ➔ 新たな取組み

某自動車メーカー様より、バッテリー評価だけではなく、
バッテリーの分解・解析等もIMVに任せたいという相談
→某自動車メーカー様より**特別指導**

→お客様にとっては、すべてIMVに任せることができるので、
他の開発に注力できることとなります。





IMV CORPORATION



IMV CORPORATION

iMV cloud

iMV cloudの必要性

環境試験ソリューション戦略：『お客様とつながる（課題解決）』

IMVと試験現場の課題

IMV

- ✓ 国内振動試験装置市場の成熟化
- ✓ 顧客要望にリーチするためのデータ収集不足

試験現場
(お客様)

- ✓ 少子高齢化による実務者の減少
- ✓ 技術伝承不足による技術力の低下
- ✓ 試験効率化・高度化への要求

iMV cloudがもたらすもの

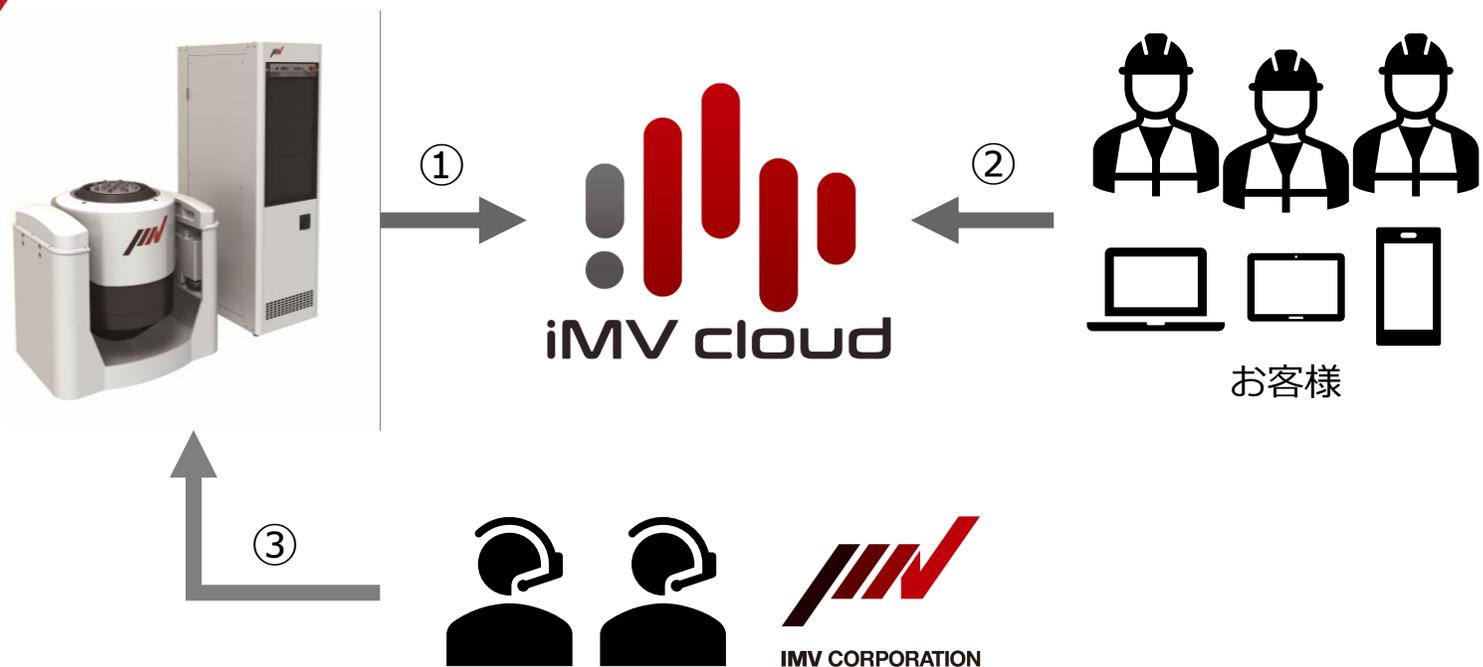
- ✓ 利便性向上によるお客様の“ファン化”
- ✓ クラウドに蓄積されたビックデータを新製品開発やお客様サポートに活用

- ✓ データ一元管理による技術伝承サポート
- ✓ 各種機能による試験業務効率化を実現



iMV cloud利用イメージ

≫ 環境試験ソリューション戦略：『お客様とつながる（課題解決）』



① データ自動アップロード

- ✓ 稼働状況
- ✓ テスト定義、テスト結果

② 各種クラウド機能

- ✓ 試験稼働状況の遠隔監視
- ✓ 試験条件、試験結果の確認
- ✓ 関連ファイルのアップロード
- ✓ 権限管理、プロジェクト管理

③ 遠隔サポート

- ✓ IMVスタッフが遠隔から振動試験をサポート

iMV cloud - DSS/TSS 事業の新しい挑戦③

≫ 環境試験ソリューション戦略：『お客様とつながる（課題解決）』

iMV cloudを導入済のお客様から**セキュリティ及び改ざん防止機能**を評価いただいています

✓ 強固なセキュリティ

- ・ お客様の社内ネットワークから完全に分離
- ・ 強固なセキュリティ設計に加えて年1回のセキュリティ診断を受診

iMV cloudは**トヨタ自動車様**のセキュリティ診断をパスしました！

✓ 試験結果データの改ざん防止機能

- ・ 試験結果の自動アップロード機能がデータの完全性※を担保
- ※完全性とはデータを最新かつ正しい状態で維持する事、データを不正な改ざん等から保護する事などをいいます。



iMV cloud - DSS/TSS 事業の新しい挑戦④

≫ 環境試験ソリューション戦略：『お客様とつながる（課題解決）』

テストラボユーザー様のご要望にお応えするために
ラボユーザー向けiMV cloudサービスを開始

試験品をセットしたときの状況を確認したい

これまでは写真撮影してメール送信していたため、手間と時間がかかっていた

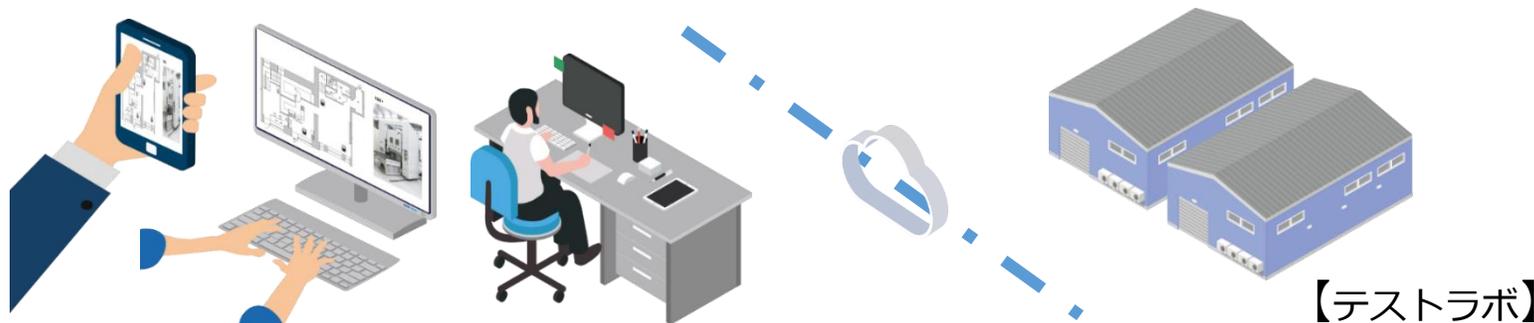
試験の実施状況を遠隔地より確認したい

これまでは試験立ち合いのため、交通費と時間がかかっていた

試験レポートを一元管理したい

試験担当者が変わると、以前の試験情報がわからない。探すための手間と時間がかかっていた

すべてのご要望に
iMV cloudでお応えします



iMV cloudの連携協議

》 環境試験ソリューション戦略：『お客様とつながる（課題解決）』

振動試験装置周辺機器メーカー（数社）とクラウドサービス提供についての連携協議を開始



iMV cloudの今後の展望

≫ 環境試験ソリューション戦略：『お客様とつながる（課題解決）』

強固なセキュリティを維持しながらサービスを発展

装置のお客様と
つながる

✓ IMV製装置の導入促進

ラボのお客様と
つながる

✓ ラボ受注率5%向上

メーカー同士で
つながる

✓ 振動試験装置周辺機器
メーカーとの連携



IMV CORPORATION

欧米市場

2023年9月期の結果



受注の状況

受注実績

IMV-EU 約30億円
IMV-USA 約12億円



防衛・航空宇宙業界からの受注

- ・ K-seriesの大型装置を中心にA74や多軸装置等も受注増
- ・ **EV関連**に続き
防衛・宇宙衛星が海外トレンド

<当期実績顧客>

- ・ EV関連大手テストハウス (USA)
- ・ 装備品関連 (EU)
- ・ 衛星通信 (USA)
- ・ ロケット (USA)
- ・ 航空機エンジン (USA)
- ・ 防衛関連施設 (USA)



短納期戦略

- ・ 大型機種(K350, K200, K125LS)を計画生産
- ・ Aシリーズ(A74, A30)を中心に常に在庫化
- ・ 他社製(UD T-1000用)アンプの在庫開始



サービスビジネスへの注力

受注実績

IMV-EU 約2.8億円
IMV-USA 約1.25億

UK 1g Dynamicsと1g Americaとで協力
米国内大手顧客からの点検・修理が伸びる

<当期 米国内サービス提供顧客>

- ・ 大手テストハウス (例: Element/NTS社)
- ・ NASA関連
- ・ 大手航空機製造

グローバル市場における大型装置の需要増への対応

EV関連、防衛・航空宇宙業界における大型装置の需要が増大

特に防衛・航空宇宙業界は昨期以上に需要増が予測される。
弊社主力大型機種であるK350, K200, K125LSを中心に計画生産していく。



米国大手テストハウス社（EV関連）への納入実績
（左記はIMV最大機種であるK350の納入時の写真）

米国におけるサービスビジネスを加速

2023年5月 米国デトロイト地区に新たにサービスセンターを開設

- 米国内への納入実績増に対応するため現地アフターサポートの充実を図る
(日本人ベテランサービスマン駐在)
- パーツ輸送時間短縮のためにサービスセンター内に主要消耗品を在庫
- 他社製装置のメンテナンス可能なサービス社員を追加雇用



サービスセンター外観



主要パーツ常時在庫



現地エンジニアによる作業

IMV America 現地メンバー

IMV Americaメンバーが総勢12名となり、米国ビジネス拡大に対応する



目次

Agenda

1. 2022年9月期決算サマリー
2. 各種の取り組み
3. Appendix

会社概要

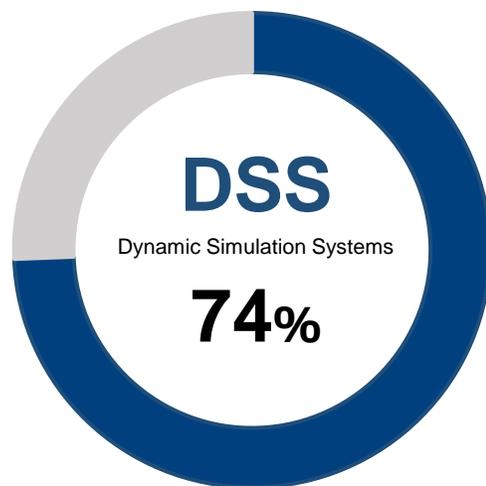
Company Profile

商号	》	IMV株式会社 [英文社名] IMV CORPORATION
会社設立	》	1957年（昭和32年）4月17日
資本金	》	4億6481万円
従業員数	》	412名（2023年9月30日現在 連結）
年間売上高	》	138億6,800万円（2023年9月期 連結）
上場証券取引所	》	東京証券取引所スタンダード市場
証券コード	》	7760
決算期	》	9月30日

事業セグメント | 売上構成比

Business Segment

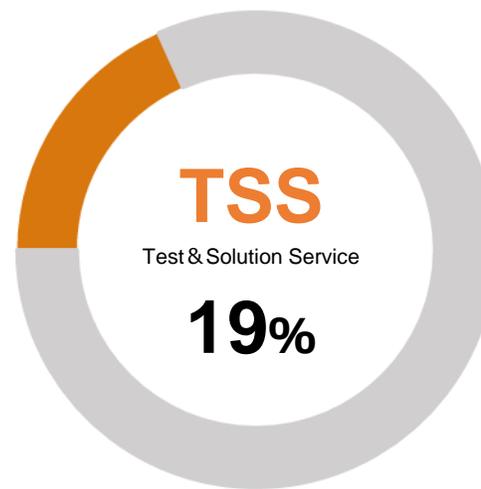
振動試験装置



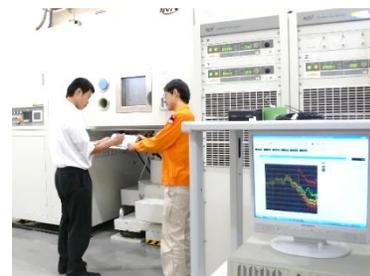
振動試験装置の販売



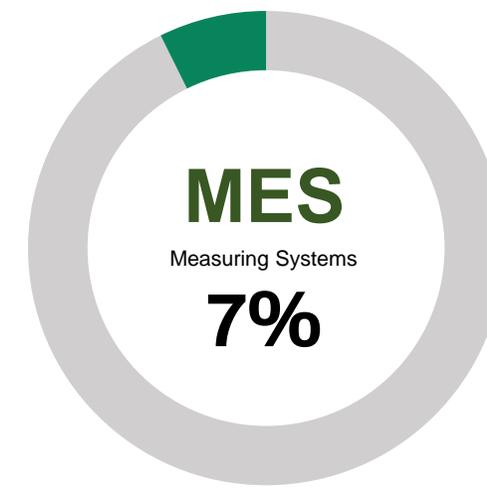
テスト&ソリューションサービス



受託試験サービス



メジャリングシステム



振動計測製品の販売



2023年9月期
売上高比率

国内拠点

Domestic bases

Osaka | 大阪



- ▶ 本社
- ▶ 大阪営業所
- ▶ 大阪テストラボ
- ▶ 大阪エンジニアリングサービス部

Uenohara | 上野原



- ▶ 上野原サイト
高度試験センター

Tokyo | 東京



- ▶ 東京営業所
- ▶ 東京エンジニアリングサービス部

Sagamihara | 相模原



- ▶ MESエンジニアリングサービス部
- ▶ 東京テストラボ

Nagoya | 名古屋



- ▶ 名古屋営業所
- ▶ 名古屋テストラボ
- ▶ 名古屋エンジニアリングサービス部

Kasugai | 春日井



- ▶ 春日井テストラボ

Iruma | 入間



- ▶ 日本高度信頼性評価試験センター

国内子会社

» (株)振研
八王子市

» 日東精機(株)
大阪市西淀川区

DSS 製品ラインアップ

振動試験装置

従来機より性能が向上したAシリーズはこれまで不可能だった試験を可能にします。また、省エネ装置や恒温恒湿槽なども提供しています。



水冷式大型振動試験装置

大型の振動試験機でありながら、水冷式を採用することにより、試験中の騒音を最小限に留め、試験環境の向上を実現した製品です。



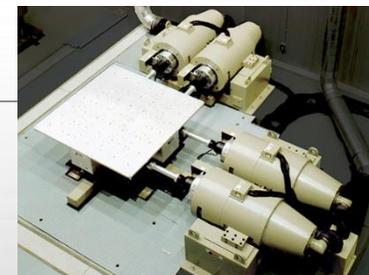
振動制御器 K2+

ハードウェア・ソフトウェア全てを自社開発し、複雑な試験でも簡単に実施可能にします。



多軸多点振動試験装置

現実にかかる振動環境の正確な再現が可能です。



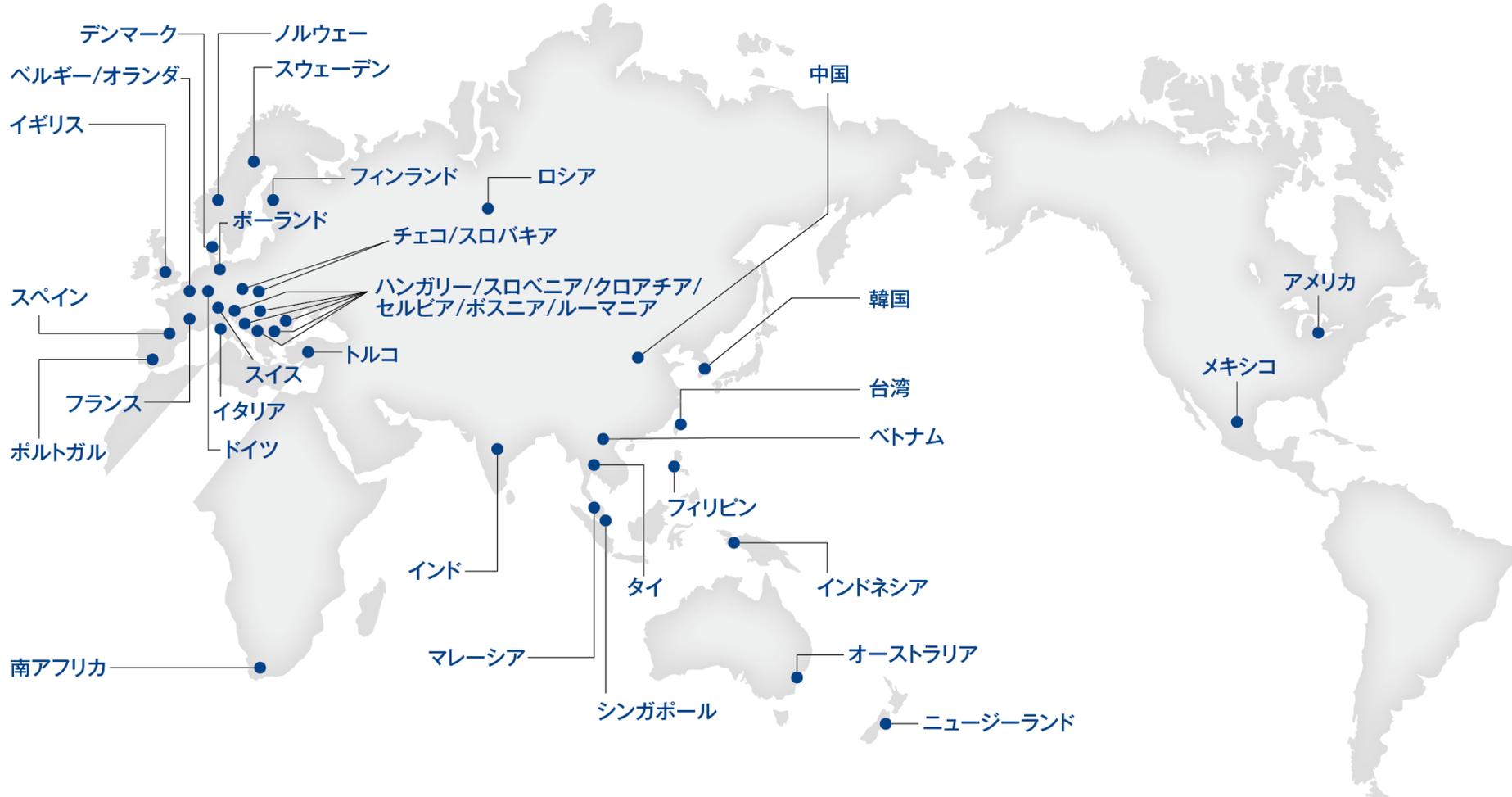
振動試験トータルシュミレーション

振動試験中の供試品の挙動を詳細に予測するシステムを導入し「計測」「シュミレーション」「治具製作」とすべてを内包した高付加価値なサービスを提供します。

小型振動試験装置、高周波振動試験装置

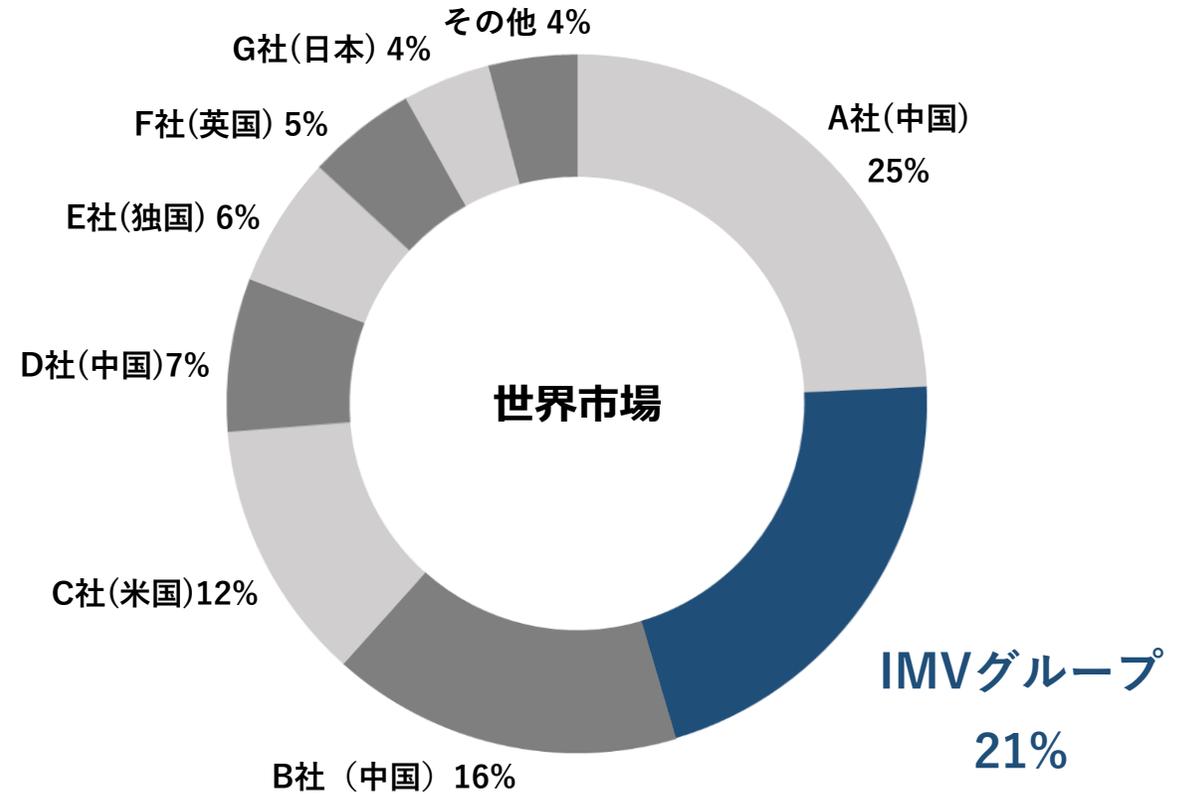
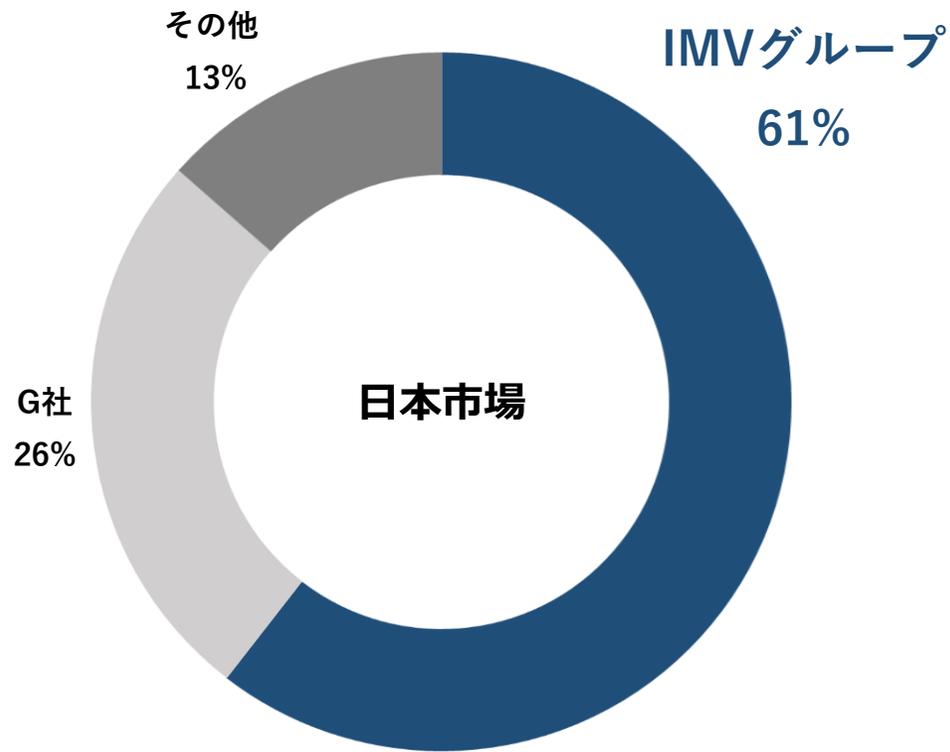
小型・低騒音でありながら本格的な試験にも対応可能な装置です。さらに、小型振動試験装置と恒温槽を組み合わせることで2k~10kHzまでの高周波の複合試験が可能な攻守は振動試験装置もあります。

DSS セールス&サービスネットワーク



DSS 販売シェア状況（当社独自調査）

Sales Share of DSS



IMVテストラボの事業紹介

大阪テストラボ



大阪市西淀川区竹島2-6-10
開設:2005年

- 振動試験
- 電池試験

名古屋テストラボ



愛知県みよし市根浦町5-2-18
開設:2007年

- 振動試験
- EMC試験
- 電池試験

東京テストラボ



神奈川県相模原市緑区日連870
開設:1988年

- 振動試験

Thailand



IMV(THAILAND)CO., LTD
アマタナコン工業団地
開設:2011年

- 振動試験
- 環境試験

上野原サイト高度試験センター



山梨県上野原市ハツ沢2193-28
開設:2015年

- 振動試験
- 電池試験

日本高度信頼性評価試験センター



埼玉県入間市宮寺4102番142
開設:2018年

- 振動試験
- EMC試験
- 環境試験

春日井テストラボ



愛知県春日井市上条町3-24-5
開設:2019年

- 振動試験

Vietnam



IMV TECHNO VIETNAM CO., LTD
タンロン工業団地
開設:2018年

- 振動試験
- 環境試験

IMVテストラボの紹介

小型から大型まで豊富な振動試験設備を保有しており、特に大型タイプは業界屈指のラインナップを有します。また複数加振機による多点加振（長尺物）環境も備えています。また、振動試験以外にもハイストレス温度サイクル試験や塩水噴射試験など様々な環境試験に対応しています。

- ≫ 小型～大型機まで充実のラインナップ
- ≫ 自動車、航空宇宙、電子機器など様々な業界において2万件を超える試験実績
- ≫ シミュレーション試験技術の開発



IMVテストラボの紹介

特長ある試験サービスと業界屈指の試験環境

》 小型～大型機まで充実のラインナップ

小型から大型まで豊富な振動試験設備を保有しており、特に大型タイプは業界屈指のラインナップを有します。また複数加振機による多点加振（長尺物）環境も備えています。約半数は恒温槽を備える複合試験対応機となっており、これら多様な機器群によりフレキシブルな試験サービスを提供します。

》 信頼性評価

e-モビリティ（電気自動車の大型モータやインバータ等）の信頼性評価試験や電池専用の試験室を構築。大型の電池試験品など大規模な試験室を要する場合は外部サイトと連携し、当社エンジニアによる試験計画策定・コンサルティングを提供するサービスも実施しています。

》 EMC試験対応

電気・電子製品から放出される電磁波を測定し、規格で決められた範囲内に収まっているかを評価するエミッション（EMI）測定と、電磁波による誤動作の起こりやすさを評価するイミュニティ（EMS）試験の2つで構成されたEMC試験にも対応しています。

》 環境試験対応

ハイストレス温度サイクル試験や塩水噴射試験など様々な環境試験に対応しています。

MES 製品ラインアップ

地震監視装置

地震を常時監視し、発生時には設備を緊急遮断することにより二次災害の防止に貢献します。



地震監視装置

IoT関連製品

機械の状態監視と地震時の緊急対応両方でIoTでの活用を想定した製品を取り揃えております。



ラムダパイプロ

FA用振動センサ

安価なMEMS素子でも10kHzまで正確に測れる超小型ピックアップをはじめ、多様なラインナップを取り揃えております。



超小型ピックアップ

振動計測装置

床振動から機械装置の回転振動まで、あらゆる振動を計測します。



WiFiポータブル振動計

構造ヘルスマニタリングシステム

ビルや橋梁といった構造物の多点に設置し、地震時および定期的に加速度波形を収集し速報や健全性を評価します。



ワイヤレスタイプ長周期モニタリングシステム

振動監視装置

発電所やポンプなどの機械振動を常時監視し、予防保全に活躍します。



接触式振動監視装置

MES 防災ビジネス活動

》 地震計の国際標準化活動

地震発生時の避難誘導、重要設備の停止、地震発生後のビルやダムなどの建造物の健全性の確認等で日本では様々な場面で地震計が活用されています。しかし、海外では防災としての地震計活用が普及していません。

IMVはスマート都市インフラの防災に関する国際標準化を検討するISO/TC268/SC1/WG6で、日本が提案した地震計の国際標準化に向けて主管企業として活動を行っています。国際会議ではトルコ、ギリシャ、中国などの国が参加して地震計の国際標準化の検討を行っています。



地震監視装置
TM-0013-SW & SW-52ST

SECURE THE FUTURE



IMVが見守る未来

Future

安全を見つめて未来の社会に貢献します。

Integrity

誠実で開かれたパートナーシップを大切にします。

Reliability

製品とサービス、すべてに信頼を作り込みます。

Strength

振動技術の世界リーダーとして経営基盤を強化します。

Technology

顧客ニーズに俊敏に応える技術を開発します。



FIRST choice
for our Partners

【業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項】

前述の将来の業績に関する予想、計画、見通しなどは、現在入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、リスクや不確実性を含んでいます。

実際の業績は様々な要因の変化により、本資料の予想、計画、見通しとは大きく異なることがありうることをあらかじめご理解下さい。

そのような要因としては、主要市場の経済状況および製品需要の変動、為替相場の変動、および国内外の各種規制ならびに会計基準・慣行等の変更などが考えられます。